

● 近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進することを目的として「流域治水プロジェクト」にもとづく取組状況についてのフォローアップ等を行うため豊平川外地域部会を開催した。(今年度は他の地域部会や石狩川下流域外減災対策協議会と合同開催)

日 時：令和6年2月9日(金) 13:30~15:00

開催方法：WEB会議

構成員：北海道開発局(札幌開発建設部)  
 気象台(札幌管区気象台)  
 北海道森林管理局(石狩森林管理署)  
 国立研究開発法人森林研究・整備機構  
 森林整備センター(東北北海道整備局)  
 北海道(石狩振興局、空知総合振興局)  
 札幌市、石狩市、当別町

## 報告のあった自治体の取組事例

- ・ 広報誌に水害に関する特集を組んで啓発
- ・ 防災イベントの開催
- ・ 防災パネル展の開催
- ・ 1日防災学校の開催
- ・ 職員に対して研修会の実施

など

## 地域部会の様子 (WEB開催)

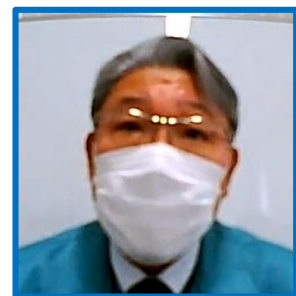


## 自治体等主な会場



左：札幌開発建設部 右：札幌河川事務所・豊平川ダム統合管理事務所

※写真を掲載しているのは参加者(会場)のうちの一部です



札幌市長

代理出席：下水道河川局  
河川担当部長

- この夏策定した流域治水プロジェクト2.0のとおり、気候変動による降雨量増加が見込まれ洪水発生頻度は約2倍になることも示されており、災害リスク増大へのハード・ソフト対策はこれまで以上に大切になってくるものと認識。
- 気候変動に対応した治水整備の加速化と併せ、整備が完了するまで川が溢れることも考慮した、水害への自分事化に向けた取組についても積極的に進めていく。
- 全戸配布している広報誌に、水害に備えるという特集記事を組み、浸水ハザードマップの確認方法や、水害が起きた際に取りべきべき行動等について啓発を行ったほか、都心部のチカホで河川事業のパネル展を開催したり、小中学校における防災教育や町内会等への出前講座を実施したりするなど、市民の防災意識向上に努めている。
- 流域全体で、あらゆる関係者が連携する流域治水の取組を深めていくことが大切であり、これらソフト対策に加えて、河川改修や流域貯留施設整備についても促進したい。



石狩市長

代理出席：危機対策課長

- 夏の時期と3月の二度、災害状況のパネル展を開催。今年度は関東大震災100年と絡め、記録が残っている写真を含めて、北海道の災害について市民啓発を行った。
- 4年ぶりに石狩防災フェスタを開催し、消防車試乗体験や札幌河川事務所から借りた降雨体験車、自衛隊滝川駐屯地の炊き出し訓練による無料配布等、啓発を行った。
- 避難行動の理解促進のため市内小中学校で、備蓄品紹介やハザードマップを利用した避難行動や理解促進などの防災教育を1日防災学校として取組を行った。
- 要配慮者利用施設の避難確保計画について全82施設で計画策定済となった。
- 各地区毎の地区防災計画をハザードマップで図案にし浸水想定区域を周知した。



当別町長

代理出席：危機対策課  
危機対策係 主任

- 4年ぶりに2回、町民を対象に防災セミナーを開催。防災マップを活用した災害への備えについての講習、洪水水害を想定した図上訓練を外部講師を招いて実施した。
- 中学1年生を対象とした防災教育の実施として、防災マップを使用した自宅周辺の災害リスクの確認や、指定避難所の確認、段ボールベッドの作成を実施した。
- 町職員の講演と図上訓練などの研修会を実施し、意識向上を目指している。



豊平川外部会長  
札幌河川事務所長

- 各自治体の取組は昨年8月にバージョンアップした「豊平川流域治水プロジェクト2.0」を推進する上で重要。特に、市民・町民の皆様が減災対策を自分事化していただくためにリスク情報の提供、防災教育、普及啓発活動等を継続的に行っていくことが重要。
- 札幌河川事務所もこれらの取組について、一部各自治体の皆様とご一緒に取り組ませていただいているところだが、引き続き皆様と連携して取り組んでまいりたい。
- ソフト対策だけでなく、上流から下流まで、砂防関係施設の整備から河川整備まで、ハード対策についても着実に進めてまいりたい。
- 豊平川では特定都市河川の指定に向けて検討を開始しており、実現した際の流域の河川整備の加速化や、雨水流出抑制対策のより一層の推進に期待している。